

ただいま発掘中！

# 巣鴨町家跡の発掘調査

創刊号 2013年3月21日

みなさんが歩いている巣鴨の地下に、「**巣鴨遺跡**」が広がっていることをご存知でしょうか。1991年以降、現在までに**100**を超える地点で発掘調査が行われてきました。この数は豊島区内の遺跡では最も多いものとなっています。調査件数が増えるにつれて、**旧石器時代**から**江戸時代**の多様な時代の遺跡が巣鴨の地下に残されていることがわかってきました。その中で、特に江戸時代の痕跡がよく残る遺跡として有名です。

江戸時代の巣鴨は、**江戸六地藏尊**の一つがある**真性寺**を中核として、**中山道**（現在の地藏通り～国道17号）に沿って**武家屋敷**と**巣鴨町**が展開していました。巣鴨町は、4つにエリア分けされ、発掘している場所は巣鴨町**下中組**にあたります。

これまでに行われた巣鴨遺跡の発掘調査では、大名屋敷、真性寺、植木屋、鍛冶屋、料理屋などに関わる陶磁器・土器・瓦や、遺構（建物跡、地下室、ゴミ穴など）が発見されています。

今回の発掘調査は、江戸時代に巣鴨町下中組の住人がどのように暮らしていたのか、また、この場所における商いの様子を探る上での貴重な機会です。

3月19日から始まり、5月初旬にかけて行われる調査では、いったいどんな発見があるのでしょうか。今後の発掘調査の経過にご期待下さい。



『中山道分間延絵図』(部分)  
 文化3(1806)年ごろの巢鴨の様子が見える絵図です。左端に庚申塚、中央には眞性寺が見えます。